

株式会社アーリーモーニング

日本初となるCTC製法による 完全一貫生産体制の確立

アーリーモーニングは岡山県北西部に位置する大佐山の自然豊かな環境で、紅茶の茶樹栽培から生産まで一貫して手がける。季節ごとに特長のある紅茶は地元だけでなく、国内に広く愛飲家があり、英国でも評価を得たという世界品質の紅茶だ。従来のリーフに加え、ティーバッグ製品の専用装置を導入、製品アイテムを拡充した。

会社概況

1万5000本の茶樹を栽培

宮本英治社長が世界的な紅茶の名産地であるインドのダージリン地方に似た気候風土がある土地を探し、新見市の大佐山に茶畑を開墾したのが始まりだ。2013年に法人化し、現在は約2ヘクタールの農園に約1万5000本の紅茶用茶樹を栽培し、紅茶工場も併設する。生産した紅茶を提供する専門店も開業しており、休日には関西地域などからも「紅茶を目当てに来客がある」（宮本英治社長）という。

大佐山山腹の東に開けた農園は、冬は積雪するほど寒く、春から秋は雲海が発生し、茶畑を霧で包む。こうした自然豊かな土地で栽培した紅茶は茶葉を摘む季節ごとに春、夏、秋と香りなどが異なり、それぞれ特長が異なる製品に仕上がる。



経営する紅茶専門店には関西からも来客

事業内容

日本で愛され、世界で愛される紅茶

宮本社長が目指すのは地域で愛され、日本で愛され、世界でも愛される紅茶。世界各地の紅茶の産地などを巡り、同じ品種の紅茶でも地域性があることを発見した。その要因は「水」。さらに食に関する地域性や文化の違いもある。そのため英国はミルクティーが主流なのに対し、日本ではストレートティーが多いなど飲み方も地域によって異なる。

紅茶も時代とともに変化してきた。ティーポットで抽出するリーフティーから、現在は抽出時間を短縮できるティーバッグが製品の主流となっている。アーリーモーニングは、ものづくり補助金を活用し、ティーバッグ製品を拡充するための茶葉加工機と三角すい形のティーバッグ包装機を導入した。



リーフティーとティーバッグを販売する

事業成果

ティーバッグの製品数を拡充

リーフティーはオーソドックス製法およびセミ・オーソドックス製法で生産するが、ティーバッグ製品はCTC製法が世界の主流となっている。ティーバッグ製品は抽出する時間が短いのと同時に茶の色を濃くする必要がある。そこでインド製のCTC機を導入した。茶葉の破壊・切断を細かくでき、品質も均一化。さらに包装機の導入により、包装工程を内製化した。

「プレーン」1種類だったティーバッグ製品は「アールグレイ」「レモンティー」を加え3種類に拡充。売り上げ全体に占める割合は半分程度まで増えたという。世界にいろいろな飲み物があるが「お茶といえば紅茶」（宮本社長）。今後も質の高い紅茶を生産していく方針だ。



インドから輸入したCTC機

会社概要

設立	2013年	所在地	岡山県新見市大佐小阪部2239-8
資本金	30万円	TEL	0867-98-3939
従業員数	2人	FAX	0867-98-3933
売上高	1540万円(2021年4月期)	URL	https://earlymorning.co.jp



ワンポイント

英国の紅茶が世界基準

紅茶研究家でもある宮本社長。紅茶は17世紀に英国人がインドで栽培を始め、その後、英国が世界に広めた。日本紅茶協会によると2019年の日本の紅茶（3キログラム以下直接包装）の輸入元は首位がスリランカで、インド、台湾、英国の順。だが、今でも英国の紅茶が世界の基準になっていると宮本社長は解説する。アーリーモーニングの製品は大英帝国時代の東インド貿易会社の流れをくむ英国の会社から品質を高く評価されている。



代表取締役
みやもと えいじ
宮本 英治さん